



第114号
発行者
退職校長会石川支部
内田賢壽



「最近思うこと」

副支部長 田口和憲

社会福祉法人桜が丘学園のお手伝いを始めて6年目を迎えました。法人では3か所の指定障害児・者支援施設と一つの児童発達支援センターを有し、その中でゼロ歳児から高齢者まで100名を超す利用者さんが日々の生活を送っています。この正月に自分の親御さんのいる自宅に帰省できたのは約半分ほどでした。その中には乳幼児のころに入所し、小学生になった今でも帰れないお子さんもいます。胸が痛みます。その人たちに寄り添い献身的な生活支援をする職員には頭が下がります。

私どもの施設には、ここで働く上での精神的な支えとなっている「誓い」があります。「私たちは、利用者の人権を確かな倫理観をもって守り、

地域社会の一員として共生できるように支援します。利用者一人ひとりの個性を尊び、最善の処遇を目指しやさしさと思いやりをもって援助します。」

私は今年も1月12日成人の日に第9交響曲第4楽章歓喜の歌を歌ってきました。人類の平和と友愛、調和や協力という言葉からは縁遠い事柄が横行する昨今、シラーの詩に込められた愛の精神をもとに、ベートーベンが「苦悩に満ちたこんな響きではない。世界中の人々が喜びにあふれた歌を歌おう」と曲に込めた心を今年こそ大きな声で、という思いで歌い切りました。もちろん最後は「フロイデ シェーネル ゲツテル フンケン！」

昭和30年、小平村と蓬田村が合併し、昨年、平田村合併70周年記念式典が盛大に挙行されました。平田村は自然豊かで基幹産業は農業と林業であり、観光や企業誘致にも力を入れています。

教育情報

平田村の教育



平田村教育委員会教育長 富岡 信

4月に開催する「ジュピアランド ひらた芝桜まつり」は、25万株もの芝桜が咲き誇り、夜にライトアップされ、ピンクや赤の幻想的な光景は感動です。幸せな気持ちになります。恋人たちや若い夫婦もシニア夫婦も男女で訪れた人たちは、手をつないで帰っていきます。あじさいの最多品種数でギネスに認定された「世界のあじさい・



ゆるまつり」も壮観です。恋人たちの聖地になるよう趣向を凝らして開催します。ジンギスカンやカレー、麺類もおいしいので、ぜひ平田村にお越しください。

子どもたちは恵まれた環境の中で、純朴でやさしく、伸び伸びと育っています。グローバル化が進んでいる社会において、国内や世界に羽ばたき活躍する人材の育成が求められる一方で、村から離れていく若者が多く、児童生徒数減少が大きな課題です。

そこで、地域と積極的に関わり、村に誇りを持ち、村の発展に貢献する人材の育成を目指し、「ふるさと教育」に力を入れています。

「ひらたの名人・達人」を招聘し、発達段階に応じた見学学習や体験学習。村から子育て支援として、これらの学習や宿泊・修学旅行のバス代を補助しています。子ども達は、村特産の自然薯や稲作等の体験をおし、調べて、植えて、予想して、観察して、収穫して、調理するなど教科横断的に学習します。アウトプットが大切なので、発表に力を入れています。村少年の主張大会では、「道の駅ひらた」で販売



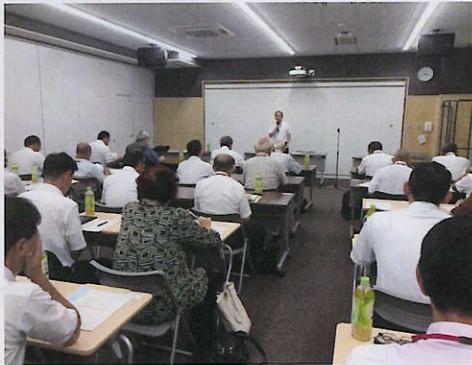
現職・退職校長合同研修会

石川地区小中学校長協議会副会長
玉川第一小学校長 双里義和

令和七年八月二十日、新築された浅川町立浅川中学校で開催された退職校長・現職校長合同研修会に参加させていただきました。

まずはじめに、施設見学をさせていただきました。浅川中学校の旧校舎のつくりを知っている私としては、「小室源四郎・ヨシコ夫妻記念ホール(音楽室)」はじめ、「ラーニングコモンズ(図書室)」、広々として明るい廊下などなど、素敵な環境に驚くばかりでした。このようなすばらしい校舎で学べる生徒や働ける教職員がうらやましくも思いました。

その後の講話では、「浅川町の教育資源と『ふるさと教育』」と題して、退職校長会の会員であり、浅川町教育委員会教育長の真田秀男様から、浅川町の教育や浅川の花火のおこり、癌研究者・吉田富三博士についてなど、貴重な話を伺うことができました。「創作漢字コンクール」における子どもたちの発想力の高さにも感心させられました。



この研修を通して、私自身考えさせられたのは、「学び舎」です。環境はとても大切であると常日頃から考えていました。私も、これまでの「学び舎」を克明に覚えていきます。長泉寺のそばにあった石川第一保育所、モトガッコに変わってしまった石川小学校、開校当時、東北一の施設設備といわれた石川中学校、そして、高校・大学とどの学び舎にも数多くの思い出が詰まっています。そこで学んだことは今の自分にとって大いに役立つものばかりでした。

教職に携わっている今、子どもたちの学習環境が、将来の夢の実現に役立つ「学び舎」になるよう、精進してまいりたいと肝に銘じた研修会となりました。

各クラブ活動紹介

文化財クラブ

蛭田重経

十月十五日、八名の参加者により「棚倉町・白河市の文化財巡り」を実施。昨年に続き前浅川町文化財委員長の奥貫四郎様に案内説明等全てを担当して頂き、充実して終了できましたことに感謝感謝。

浅川町公民館駐車場で開会后、車二台に分乗して棚倉町逆川地内の社川三方分水堰へ。棚倉城跡のお堀の水は、ここから取水されているという。

次に白河市南湖神社を参拝。松平定信ゆかりの茶室松風亭羅月庵と共楽亭は歴史の重みを感じ、南湖地内にある棚倉藩鎮英魂碑を拝み、戊辰戦争白河口の激戦地稲荷山へ。薩長中心の新政府軍に対抗した奥州列藩同盟軍の戦死者は三百数十名、その鎮魂碑を黙禱した後、新白河駅近くの回転寿司店へ。美味しい寿司での昼食、休憩、情報交換等。

小南湖奥の白河藩大名家墓所の入口で礼拝。長寿院内に建てられている新政府軍の墓を参り、白河宿旧脇本陣柳屋へ。明治天皇が東北巡行の折休息・宿泊した由緒ある建物。

最後に復元中の小峰城櫓門「清水門」を眺めて終了。



ゴルフクラブ

川崎真裕

肌寒さを少し感じた集合時でしたが、徐々に暖かくなつた十一月二十三日、恒例の現職校長先生方との合同懇親コンペを開催しました。白河国際CCCに集まったのは十八名の愛好者、退職組は十四名、現職組は四名の五組でした。

退職組は健康ゴルフで日頃培っているせいかその無いプレーでまとめていましたが、現職組の若さあふれる力強いショットを見て「自分も若い時はあんなに飛ばせたなあ。」と無い物ねだりの感想を抱きます。

ながら七十才以上から打てるティーマークからクラブを振り回していました。

現職組は当然のことながら職務第一でラウンド機会が少なく、思うようにプレーできませんでしたが、気落ちすることなく楽しんでいました。どの組も、日頃の情報を交換しあう和やかなラウンドでした。

会話が弾む閉会式では、優勝田口和憲様、準優勝有賀真道様、バスグロ矢吹伸一様が表彰され、また来年も元気に、勤労感謝の日に再開することを誓い閉会しました。



野草・園芸クラブ

本年度は活動を休止しております。

哀悼

角田文代先生を偲んで

内田 賢 壽

角田文代先生のご霊前に謹んで哀悼の言葉を捧げます。

先生は昭和三十五年より教員生活をスタートされ、昭和五十九年に石川町立野木沢小学校教頭として四十六歳の若さで昇任されました。平成三年には石川町立山形小学校校長として昇任され、数少ない女性校長の一人となりました。

その時に私は新任教頭として、職務の在り方などご指導していただきました。

私は、先生が浅川小学校に勤務された時の教え子でもあります。先生は二十四歳で私は五年生でした。子どもながらも、きれいな先生だなと感じておりました。

退職後は民生委員などで活躍され、浅川町発展のために貢献されました。

先生のこれまでのご功績を偲び、心から敬意と感謝を捧げ、お別れの言葉といたします。角田文代先生、どうぞ安らかにお休みください。



研修旅行

宇都宮の旅

蛭 田 重 經

九月二十九日、最高の天気に恵まれ、松風石川会の懇親旅行が十五名の参加者により栃木県宇都宮市を目的地として実施されました。

東北道宇都宮ICから十五分程で、最初の見学先大谷石で名高い大谷資料館。大谷石の採掘現場跡の地下空間です。専門ガイドの案内で地下三メートルの空間へ。その広さに度肝を抜かれました。東京ドームがスッポリ入ってしま

うというのですから。壁面には手掘り時代のツルハシの跡が。機械化された昭和三十四年頃まで続いた手掘り時代の苦勞が偲ばれました。広い空間は採掘の結晶ですから：

次は大谷寺の千手観音。日本最古の石仏で、平安時代(八一〇年)弘法大師の作と伝えられ、大谷観音として多くの入々から尊崇されており、厳かな気分で参拝しました。寺の境内にある自然の岩壁に彫られた高さ二十七メートルの平和観音は、世界の平和を祈り一九五六年に開眼され、私達も改めて今の世界情勢下の平

和を願い、手を合わせました。待ちに待った昼食は、最年

長の棚瀬英一様のご発声で乾杯し、宇都宮餃子をメインとした定食の美味しさを堪能しながら、懇親を深めました。午後はLRT(ライトライン)路面電車への乗車です。宇都宮駅西口のビル内にある事務所で、LRTに関する諸事項を受講後、職員の引率により東口停留所へ移動。開業二年という新規格のLRTに乗車、乗り心地満点、幹線道路を走る爽快さ、車両基地も見学でき、充実感に溢れたLRTの乗車体験でした。

最後に道の駅うつのみや・ろまんちっく村に寄り、小休憩とお土産買いをしました。無事帰宅。楽しい旅行でした。



現役でがんばっています

二 平 光 明

二年前に退職し、浅川町教育委員会で働かせていただいています。現職の頃の経験を活かして仕事ができるのは幸せだなと感じます。職場では電話機の近くに座っているの

で、呼び出し音が鳴るとすぐに受話器をとることを心がけ初心に返ったつもりで仕事に取り組んでいます。浅川町では「ふるさとを愛し、夢とこのろざしを持った思いやりのある浅川の子」を目指す子ども像に掲げており、教育委員会職員、学校の先生方と力を合わせて取り組んでいます。

仕事では、研修会参加の機会が多く、現職の先生方と役割は同じであり、責任の重さを感じます。学力向上の会議では、「学びの変革」や「研修観の転換」など授業も研修も学ぶ側からの視点で語られています。ある会議では、「授業中の先生の話を半分にしませ、ほめてやらねば人は動か

ともありました。意図は、子どもたちの考える時間、話し合う時間、振り返る時間にある、教師が話す授業から教師が見る、聞く、つなぐ授業

への転換を求めるものでした。自分自身の授業を見る視点を

変えていくこと、そして研修会の内容を現場の先生方に向まく伝えられるようにしていくことが現在の課題です。

勤務は定時で退勤できるの

で時間的にも気持ちの面でも余裕ができ、最近では、父親から手ほどきを受け庭木の剪定に励んでいます。最初は説明を聞いても、手本を見せてもらっても全くわからず、考

え込むばかりでした。OJTの精神で取り組み、どれを切ろうか長い時間迷い、「これか!」と閃くと「枝さん、ごめんなさい」という思いと裏腹に、剪定鋏が勝手に動き、気が付くと凸凹に枝を切り過ぎたことを後悔するばかりです。このような姿にも父親は特に指摘することもなく、最後に見て、詰める枝を数本教えてくれ、「いいんじゃないか」と言ってくれます。その度に山本五十六の「やってみせ、言ってみせ、聞いてやらせ、ほめてやらねば人は動か

健やかライフ

吉田 忠夫

私の健康ライフは、健康ヨガと健康カラオケです。どちらも温泉とセットで楽しめるところが魅力です。

ヨガ教室には、月二回（一回九十分）参加し、心と体をリラックスさせています。ヨガは、深い呼吸をしながら行う体操です。息を大きく吸う時に、交感神経が優位になり身体が活性化され、大きく吐く時に、副交感神経が優位になりリラックスにつながります。このように呼吸を意識しながら体と対話することにより、集中力が高まり、自律神経が整っていきます。ヨガを始めて一年になりますが、就寝前に数分間ヨガ体操を行うことにより、睡眠の質が高まっています。

健康カラオケは、ストレス解消や口腔機能の改善に繋がると言われます。このカラオケは温泉の大広間で週に一度楽しんでおり、カラオケ仲間が増えています。一月に新春からおけ大会（六十五歳以上が対象）が同施設で開催され参加しました。歌った曲は、世代を超えて愛され歌い続け



られている名曲、安全地帯の「ワインレッドの心」（作詞・井上陽水）です。練習は、チューブの動画を見ながら歌詞カードにポイントを書いて行いました。本番では、歌詞に「燃えそうで燃えない」とあるように、熱くなりすぎず、ワイン色までいかないブルーな感じで歌うような心がけました。審査結果は二十八名中四位入賞で豪華賞品(?)をゲットできました。



今年も丙午の午年です。いい思い出ができました。これからも楽しみながら健康増進に努めていきたいです。

― 雑感 ―

渡辺 敏幸

昨年六月、右足かかとを骨折し、約一カ月半入院した。退院後は、リハビリの一環としてウォーキングを始めた。三十分程度であるが、長閑な田園風景を眺めながらのウォーキングは気分転換にもなっている。田植え直後の水田、緑に染まる夏、稲穂が実る秋と田園はいろいろな顔を見せてくれる。ことに稲刈りを終えた後の田んぼは六十年前も前の小学校時代を回顧させる。

当時、田んぼには稲わらが山のように積まれていた。「わらぼっち」と言って格好の遊び場であった。バク転や空中回転などの練習をしたり、わらで家をつくったりして遊んだものだった。

しかし、今の田んぼには「わらぼっち」を見ることはない。もちろん、田んぼで遊ぶ子どもたちの姿も見ることはない。時代の流れと言え、それまでであるが、何か寂しさを覚えるのは年のせいだろうか。

そういえば、今年は、昭和元年から起算して満百年目の年である。「昭和は遠くなりにけり」かな・・・。

ボランティア活動

渡邊 良一

第2回ボランティア活動は特別養護老人ホーム「ふるどの荘」で行われました。郡内のホームはどこも敷地が広く身近に自然があり、入所者の方々が気持ちよく生活できる環境です。しかし、裏を返せば環境整備が容易ではなく、職員の方々は大変なそうです。

そういう事情もあり、花壇等の細かい草むしり、機械による草刈り、植え込みや樹木の剪定等、単発で短時間の我々の作業でしたが、ホームの方々には喜んでいただけました。次年度は、「よもぎ荘」「さぎそう」の予定です。多くの皆さんのご協力をお願いします。



― 編集後記 ―

年末、学法石川高校男子駅伝部の全国優勝というビッグニュースが飛び込んできました。自分が関わった平田村の子どもたちの中にも、ここに所属して成長し箱根駅伝を走った選手もおり、部員の意識の高さや日頃の努力を感じており、とてもうれしいニュースでした。

さて、昨年は自分にとって退職の年。自由になった時間を大切にしたいと考え、これまで十分にできなかった米作り、果樹作りに勤しんできました。気象の影響が大きく思うようにには行きませんでした。が、米はコシヒカリで畝取り（10aで10俵）を達成、梅や栗、ブルーベリーも品質が高まり周りの方々に喜んでいただくことができました。

一線を退いても、目標をもって工夫や努力をしていくことが生活を充実させ心を満たしてくれると感じています。頑張っている子どもたちはもちろん、現職の方々、先輩方の姿に感化されながら意欲を高め、次のステップにチャレンジしていこうと、今、静かに意気込んでいます。

有賀 真道